

仙人通信 146 三つ峠山(1785 m)

三つ峠山は、国道 137 号の御坂トンネルの東側に位置し、開運山・御巢鷹山・木無山の 3 峰の総称で、山頂に沢山の無線アンテナや反射板が設置され、遠くからでも容易に確認できる山梨 100 名山である。又山に咲く花が多く、花の 100 名山としても有名である。

御坂トンネルの河口湖側入口の旧道を東に進み、天下茶屋に向け大きくカーブするポイントを直進し、清八峠に向かう林道の入口にある駐車場からのピストンをする事にした。駐車場には全輪にチェーンを巻付けたジープが、何台も置かれており、軽ワゴンから乗り換えた人を見つけ訪ねると、茶屋のご夫婦で登山道を山頂までジープで登ると言う。まさか山頂の茶屋まで登山道を・・・。  
都留市の小学校の生徒を乗せたバス 4 台も到着！・・・三つ峠登山遠足だ、これも想定外だ・・・。  
登山口では、9 月末にも関わらず、白いカントウヨメナやミヤマシシウドが元気に迎えてくれていた。登山道は、径が 20cm もある石だらけの上、勾配が 20° 以上の所もあり、昨晚までの長雨で滑りやすい。スタートから 30 分程歩いた崖の上には、ミヤマノギクに混じり、可愛い釣鐘状のツリガネニンジン・紫のトリカブトが目立つようになる。登山道の横は、高山植物保護のためにロープが張り巡らされ寂しい。林道化した登山道を 1 時間程進むと四季楽園・富士見荘の看板があり、ここで林道と分離だ。更に 10 分程進むと天上山(ロープウエー)へ下るコースの案内板が、更に 10 分で三つ峠山荘前の展望台だ。茶色の火山灰の露地には方位盤があるも、雲が立ち込め周囲の山を望むことなぞ不可能であり残念だ。西側の保護柵の中には、白とピンクのノギク・赤いワレモコウそして紫のマツムシソウが晩秋を奏でる。僅か下った地点の四季楽園と休憩所、更に屏風岩や三つ峠駅へと繋がるコースの分岐を過ぎ、無線の反射板の前を進み開運山山頂を目指す。嘗て作られた板製の階段は、風雨と登山者の多さで土砂が流され壊状態だ。登山道の縁では、白いウメバチソウ・紫のマツムシソウやトリカブトそして雨に濡れたフジアザミが気の毒になるほど搾れて咲いて居る。凝塊岩状の岩の上に三角点・100 名山そして三つ峠の表示である。開花時期を過ぎたホツツジのピンクの花・真赤なナナカマドの実だ。歩き始めて丁度 1 時間 30 分で開運山の山頂である。この山頂には、NHK・フジテレビ・そして防災業政中継のアンテナだ。又もや、これらの中継器のメンテ用にジープが走る林道だが、林の中は紫のトリカブトの花で埋め尽くされている。御巢鷹山に向かい 5 分程下ると今度は NTT の中継のアンテナだ。山頂から 15 分程で下からの林道と合流し、登りのコースを 10 分程で御巢鷹山の山頂である。この山頂も無線のアンテナだ。山頂の清八峠を指す標識を確認し、再度開運山に戻り木無山を目指す。木無山は、先程のロープウエーの入口から霜山と母の白滝の分岐の手前だ。木無山の近くでは、ウツボグサやピンクのフウロも探せた。今から 50 年前、夜行日帰りで笹後駅→清八峠→三つ峠→河口湖を歩いた昔の面影を探しながらの、展望の利かない 4 時間半(1900 歩)の山登りとなりました。(h 28・9・30)

三つ峠山山頂



トリカブト



登山道で出会ったジープ

